

黒部市総合振興計画審議会 第1回 第3部会（都市基盤）会議録

日時：平成18年11月29日（水）10：00～12：15

場所：黒部市民会館101会議室

出席者：委員7人（欠席1人）、専門委員4人

事務局

定刻を過ぎましたので、只今から黒部市総合振興計画審議会第1回第3部会を開催させていただきます。本日は 副部会長さん、 委員が少し遅れるということでもあります。

委員さんにつきましては、今向かっておられる途中というところでございますけれども、定刻でございますので開催させていただきます。それでは松野部会長よりご挨拶をお願いいたします。

部会長

おはようございます。若いのが何か部会長になれということで、本当は 委員さんのほうが若いんで、私はだいぶ年とってるんですが、本当に大先輩がたくさんいらっしゃる中で、私ということでたいへん恐縮ですが務めさせていただきます。第1回目の全体会議から2カ月余りということで、その2カ月の中ではですね、市役所の庁内の皆さん方からだいぶ基本計画に十分審議をされたということでございます。そういうことで今回はですね、その一部を協議していただくということになります。また大変時間がないようでありまして、今回ともう1回で中間報告にまとめるということになります。従いまして、2回という大変短い時間の中で協議をしなければなりませんので、十分な議論ができるかどうか、多岐にわたるとは思いますが、少しでも何か築ければいいのかなあというふうに思っております。ただまあ今日の新聞なんかでも高岡の橋市長は街中への定住人口を増やすとかですね、まあコンパクトシティ街中歩いて暮らせるまちとかですね、そういうものについての取り組みが非常に叫ばれてきてありまして、先進地はどうも青森だということでございますが、考え方の先進地は実は黒部だったというふうに思っているわけですけども、中々そういう意味ではですね、世の中が考え方が大きく変わりつつある時であるということございまして、特にこの3部会都市基盤というものにつきましてもですね、これは考え方が大きく変わるところではないのかなあというふうに思っているところであります。ただ、今あるものを全部リセットして新しいまちを作るっていうことはこれはとてもじゃないことができる話じゃありませんので、今ある現状を踏まえながらどういうふうにしてやっていけばいいのかっていうことをですね議論していただきたい。まず今日は僕は役所の皆さん方から考えた道筋とちょっと違うかもしれませんが、少し長い目で、長いスパンで考えていただいてですね、100年後にはどういうまちにしたいんだと。だから今の10年間はこうしなければならぬということの話にさせていただければ実にありがたいのかなあ。そうするといろんなこれから重点事項のものも出てまいります、どれを先にしなければならぬっていうこともですね、おのずからそこに結論が出てくるんじゃないかなあというふうに思っているところでございます。余り挨拶ばかりになりますと駄目なのでこの辺にさせていただきます、議事の方に時間をとらせていただきたいと思います。

よろしくお願ひいたします。

事務局

ありがとうございます。それでは早速議事に入りたいと思いますが、審議会条例の定めによりまして、部会長が会議の運営にあたるということになっております。これからの進行を松野部会長にお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

部会長

それでは早速議事に入りたいというふうに思ひます。次第書きの順序に従ひまして進めてまいりたいというふうに思ひます。まず3の報告事項、計画策定に係るこれまでの経過について説明願ひます。

事務局

-----資料に基づき事務局から説明-----

部会長

これにつきまして何か質問ありますれば。これはよろしいですね。

はい、次に移りたいと思ひます。それではですね協議事項1番目の施策の体系、先程も言ひましたように2回で結論を出さなければならんということで大変厳しいわけですが、ひとつ充分な議論をしていただきたいというふうに思ひます。事務局の方から説明願ひます。

事務局

-----資料に基づき事務局から説明-----

部会長

はい、ありがとうございました。実に素晴らしい綿密に構成された中身でありまして、これでいいですかっていうと5分で終わってしまうんですけども、まずですね、今日は12時まで時間を一応11時半....

事務局

その辺の間で。

部会長

ああそうですか。できればですね何分間かをを使ってですね、その最初の本当にこういう将来像でいいのかということですね、お話をいただければ、議論していただければいいのかなというふうに思ひます。従来はですね、街中に大きい道をつけて区画整理とか何かをしながらですね、車が通りやすいまちにすればいいんだということだったんですが、今はそうでもないよ、街中にそうすることによって人があまり住まないよ、商店の人もそこに店だけがあって住むところは郊外にあるよと。それでは定住人口は増えないねというこ

との話がいろいろと富山市、高岡市から出てきているわけでありまして、そしてかつ先程の説明の中にもありましたように、財政見通しを示せ、要は金のかからないまちづくり、コンパクトなまちづくり、コストのかからないまちづくりはどこにあるのかという、あんまりに美辞麗句を並べたようなまちづくりはもう終わりだよということの時代に入ってきていると思いますので、できればその辺の議論を少し、100年後はこうなるべきだろうという話を少ししていただくとありがたいのですが、どなたからでも結構です。よろしくお願いたします。

委員

あの一。

部会長

はい。

委員

部会長のちょっとお話に直接答えにならないかもしれませんが、2回の部会で中間報告をとりまとめるということなのですが、部会長がおっしゃったように、非常によくできた整理表などで、極端なことをいえばこれ以上何を議論するのかというくらいよくあります。今から逆にいいますと、あれもこれも非常に、悪くいえば美辞麗句の羅列というのか総花的というのか、これが全部実現できれば本当に何ていうか何も付け足すことがないという感じがするんですけども、そういう中で中間報告はどういう形の報告を求めているのか、それがちょっと分からないっていうんでしょうか。これだけよくできてるだけにですね、この中から優劣をつけるのか、それから先程からありました財政との関連で、できるものできないもの、そういうものを取り分けていくのか、最終的に第3部会の話だけではなくほかの部会も含めてどういう報告書を何ていうかな、イメージされているのか、それが分かった方が何かちょっと議論もしやすいのかなあって感じ。ちょっとあまり時間もないということなんで、なにかそこをちょっと感じました。あと具体的な項目についてはいろいろまた別途に。

部会長

はい、事務局からお願いします。

事務局

来年3月に予定しております基本構想の中間報告につきましては、先般第1回の審議会で基本構想の素案という資料をご提示をさせていただいたところでございます。基本的には基本構想素案というところが基本構想中間報告ということで、ああいう形が中間報告として公表をされるというふうにご理解をいただきたいというふうに思います。先般基本構想の素案ということでご提示させていただいたわけですが、その時点ではあくまで新市建設計画をベースに記載可能なところを記載したところでございまして、そのあと役所の方でいろいろ本当に事業メニューはこれでいいのかとか精査をした中で、修正を加えな

ければならないところがいくつも出てきております。それらを修正を加え、そして重点事業等もしっかりと位置付けをしながら、あのような形で中間報告として公表を予定しとるところでございます。今の議論は今お願いしている協議は、基本構想というあの形のものをしっかりとしたものにしていくための基礎となる部分、事業メニューの整理ですとかそれから重点事業の位置付けですとか、そういうことをこれから修正を加えていくための基礎として整理をお願いしようということでございます。

部会長

最終的にはこの黒丸の重点事業をこれをこれで確定するかどうかということになりますかね。最終の2回目では。

事務局

部会として。

部会長

部会として。

事務局

ええ。

部会長

これでいいのかという。

事務局

はい。

部会長

これに付け加えるものがあるかどうか、そういうことであるということですね。今本当の入り口の前段の話です。

私ばかり話をするといけないんだろうというふうに思いますが、前回ですね地域づくりと地域の未来づくりというフォーラムの中で、富山市の井上さんという方が言っておられましたが、人口密度・D I D 40 人以下がマイナス、社会コストがマイナスになってしまう。40 人以上密集するところがコスト高であるということで、富山市では 41.5 人でこれぎりぎりの線だ。これからこれが下回らないように努力をするんだというお話がございました。そういう点では黒部市の人口密度・D I D はどうなんですか。何人なんですかね。どなたか。

事務局

33 人程度じゃないかと思います。

部会長

33 人ですか。そういう点ではこれからの未来社会、未来の人達に負担を残してくまちになっているということになるわけですね。だからこういうことを本来はこの基本的な方針の中にやはり盛り込むべきのような気もいたしますが。

はい、どうぞ。

委員

今人口の問題が出ましたので、ここで 10 年計画っていうようなことかな、100 年後見据えてってということになりますと、10 年とか 20 年先ってというのが、今の人口という問題からすると、もっともっともっと高齢が進み、少子化が進んでいくというふうに予測されるわけですね。それをどういうふうにまず考えてくかっていうところから、基本的なものが出てこないんじゃないかっていうことを、この細部に亘ってはいろいろあるとは思いますが、そういうところがとても大切なんではないのかっていうふうに思います。また人口が増えてくまちにするにはどうするかっていう基本的なものが、実は私は女性ですから女性のところから考えると、女性、子供が住みやすい、女性と子供がここならいいというまちにしないと、そのいわゆる人口というものも増えてかないだろうし、というような基本的なことを感じておりますけれども。

部会長

まさにそうですね。今高齢化・少子化、そして人口が去年の中頃からもう人口が減ったりして、日本全体では毎年 50～60 万人以上ずつ減っているだろうといわれてますね。そういう中での交流人口が増やすことがっていうこともあります。私は答えると駄目なので、その辺いかがですか。そういう考え方聞いて何かこういうことを施策の中に考えてありますよってということがありますか。

事務局

人口が増えると増やすということは非常に基本的には非常に重要なことだと。例えばその自治体のいわゆる何というか力といいますかそういったものの中の非常に大きな部分が人口指標だというふうに思います。ただその人口をどうやって増やすかという話につきましては、なかなか難しい問題がたくさんあるだろうというふうに思います。それで例えば個別の事業として保育所の負担を減らすとかそれから幼児医療の充実とかいろいろ施策はあるわけですが、それでもってどれだけ増えるのかという予想っていうのはなかなか立ち難いものであるというふうに思っています。ただ我々は総合振興計画を作る上においては、いわゆるそういう人口増対策とかそういったものはやりますが、ただそれが定量的にどれだけ増えてくんだというのはなかなか見えてこない世界かなあと。我々はそういう人口減を避けるためにまちの活性化とか、それから例えば新幹線を平成 26 年に開業するということをこれを単にストロー現象に終わらせないために、例えば観光とかあるいは地場産業を育てていくとか、あるいは企業を誘致するとかこういったことに力を入れてくことによって防いでいきたい。将来的な人口はどれだけ増えるのかっていうその目標数値もおそらくここで例えば増えていくというような総合振興計画の基本構想の中に出せ

ればいいんですが、おそらくそれはなかなか難しい。ただそういういろんな施策を行うことによって、減少を食い止めたいというところが実は本音じゃないかなあというふうに思っております。

委員

実は今部会長さんから富山市のお話が出ましたので、これも私が個人的にある方からということでお聞きした滑川市の方が約1割5分増えてるというふうにお聞きしたんですね人口が。それはどういう理由だったんでしょうかっていうふうに私お聞きしましたら、その方の個人意見だろうとは思いますが、まず子供を大切に、子供が安全に子供達が喜ぶ市をつくる、そのことが女性、主婦が喜ぶと。そういうことの輪が滑川に行けば子供を育てる環境としてはいい環境なんだということが若い人の流入を図ったんではなからうかというふうにおっしゃってました。そしてこいことしたらいいんじゃないか、こいことしたらいいんじゃないかっていうことからすれば、ある意味何もしなかったから人口が増えたんじゃないかというような、そういうご意見をお聞きしました。それを私一人の女性として聞いた時に、なるほどなって、人が集まってくるっていうのは非常にひょっとしたら非常に単純なところにあるんじゃないかっていうふうなことを感じてきたところなんです。それでまあいろんなこういうふうにいるあるわけですけども、今おっしゃったご意見の中で、やっぱりこうすべきじゃないか、こうすべきじゃないかというものがあると思うんですけども、実は人が集まってくる、人がそこに増えてくるっていうのは非常にその単純なところにあるんじゃないかっていうところにちょっとこの行政が手を入れていただくと、意外な状態をつくるんじゃないかという単純発想でその方のお話を聞いておりましたのでちょっとここで話しました。

部会長

具体的な話まで。

委員

いいえ構わないと思いますが、その方との会話ですのですね。それが参考になるなと思いました。保育所であるとか幼稚園であるとか、というその子育ての心を公営から私立にしていったということが一つポイントではなからうかとおっしゃってました。どういう子供をどう育てていくかっていうところがお母さんたちからみえてくると、あそこの幼稚園に行く、あそこの保育所に入れたいっていうことになってくる。そうするとその保育所や保育園はもっともっと良くしていこうと考えていく。そして安全性であるとか子供達の競争力であるとか、体力であるとかというところをその私立になることで、それがどんどん向上していったというふうなのがポイントじゃないかとおっしゃってました。そういうことの女性達のこの輪っていうんですかね、コミュニケーションっていうんですかね、そういうことが滑川に行って住もう、滑川で子育てをしようというところまで広がっていったんじゃないかっていうふうにおっしゃってました。これは私達が単純に考えると、今子供達が産まれてくれば20年先は人口が増えるわけですね。20歳の成人がいるわけですね。そういったような生産力であるとか、自治体の力であるとかっていうのは、10年後、20

年後を見据えたとしたら、今、非常にここで安心して子供を産める社会づくりこそが大事なことなんではないかなあということを単純なんですけど思うんですけども。

部会長

ありがとうございました。これは第4部会で協議された話ですね。ぜひとも話されてなければぜひともお伝え願いたいというふうに思います。

これについて何か市の方からお答えはありますか。

事務局

今の話ですか。

部会長

それも含めて人口、いいですか。なければ、はい。

委員

ごめんなさい、もう一ついいですか。

部会長

はい。

委員

今私お話したのはたまたまそういうことなんですけど、道路整備であるとか今部会長さんおっしゃったように、道路がだーっとその車優先だけの道路をつくっていくことがいいことなのか、これは生活道路に対してどういうふうにしていったらいいのかっていうのがひょっとしたらそこからイメージとしてでてくるのかなということも含めての意見でございますので。

部会長

今の考え方どっかに入っていますか。それとも道路は従来のように大きい道を街中にどかってつくろうという市姫通りをもっと大きくしようという考え方がそのままあるのか。いかがでしょう、お願いします。

事務局

よろしいですか。

部会長

はい、どうぞ。

事務局

建設課でございます。よろしく申し上げます。今の質問ですけども、施策中分類の中の

生活道路整備事業、この事業メニューの安心快適な歩行者空間の確保というところに位置付けされているのかなあと思います。

部会長

そして幹線道路整備と生活道路整備のその兼ね合わせはどうですか。街中に大きい道をつくろうというので、いろいろ実際にはされてるようですが、その幹線道路と街中に入れているのとそれと生活道路と分けられているのはどういうふうにされているんでしょうか。

事務局

いいですか。

部会長

はい、どうぞ。

事務局

幹線道路は幹線道路で整備をしますが、生活道路はそれに接続するものと考えておりますので、生活道路を通りながら幹線を抜けていく、地鉄の方へ連絡しようというふうになっております。

部会長

いやそれは車の話を聞いているんで、あの生活者の話、生活者の立場でどうなってますかということ聞いていらっしゃるわけです。車はいいんですよ。小さい道から大きい道へ抜けていくのでいいんですが、車社会からどうやってそういう地域のそういう生活を守ったエリアをつくっていくのか、そういうビジョンがこの中にありますかという質問ですね。

委員

ちょっとよろしいですか。

部会長

はい。

委員

入善土木もこういった道路整備とかそういったことやってるもんですから、私から。私もこれはよく理解できないんですけども、この切り口をですね。ただここで今の道路の話出ましたけれども、道路の役割りっていうのは、車を通すとか歩行者の方をまあまあ通行するとかそういった機能の他にもいろんな機能が本来はあるんですね。幹線道路と生活道路うんぬんというお話もありましたけども、広い道路というのはですね、広くすれば車もたくさん走れますし歩行者の方あるいは景観そういった植樹とかそういったことによっているような機能も使えますけども、私この都市基盤の視点で一番欠けてるのは防災って

という視点がちょっと無いなど。防災は他の方のところでも何かやられるわけですが、広い道路っていうのはですね、防災機能があるわけですね。いろんな意味での防災機能が。ここに書いてあります公園につきましてもいざっていう時の避難地とかそうなるわけですね。防災っていう点からいってもそういった社会資本っていうのはですね、使えるわけなんです。そういったようなことで、広い道路っていうのは要は通過交通とか本来はそこに関係のない交通が生活道路に入っていくないように幹線道路っていうのを整備して、生活道路についてはその地域の方達が主になって使うと。いろんな交通が入ってこないようにするというのが本来はそういう意味で幹線道路とここで生活道路と区分けがしてあると私は思ってるんで、おっしゃられたようにこれからの道づくりっていうのは車中心からっていう言い方はされてますけれども、なかなかそうはいってもこれだけの車社会になってしまってるとうとういったまちづくりをしていくのか、富山市さんなんかはああいった既存のストックっていうんですかね、施設を富山港線を路面電車にされてですね、うまく活用されてるんですけども、黒部市でどういったストックがあるのかですね、まちの中でですねそういったものをこれからは新たに作るよりもそういったものを活かしてくっていうのが非常に大事なことだと思うんですよね。そういったことで地鉄の電車使われるとかそんな話もちょっと聞いてはおりますけれども、そういったようなこともやっぱり考えていかなきゃいけないと思いますし、あと何か都市基盤といいながら、土地利用の話もちょっとこっから見えてきませんし、私もこの重点事業の丸ついてるのはこれからやられるなりあるいは既にとっかかっているものが殆どかなあという気はしてるわけですが、そういった中でこれから 100 年後を見通してですね、10 年実際できるものっていうのは新幹線も平成 26 年ですから、言ってみりゃ 10 年間決まってしまうようなあれなんですけども、せっかく部会長さんおっしゃられたように、国家 100 年の大計で物事を考えるというふうなこれからのまちづくりをどうしていくのかっていうのは、ちょっとこの分類からなかなか見えてこないのかなあっていう気はちょっと私は、あとまあ最後に言いました、防災っていう視点がちょっと欠けてるくらいで、広い道路は必要ないっていう話になるんですけども、じゃ本当にそういったものが狭いごちゃごちゃしたところはまあ魚津なんか大火になったりですね、まあそういったこともありますので、防災っていう視点も大事なかなあという気がします。

部会長

はい、ありがとうございました。座長として広い道を反対してはおりません。ただ西欧の社会はですね、やはり日本と同じ間違いをして旧市街地に大きい道を作ってですね、皆さん車社会に対応しようとした 1990 年代ですね。ところが車だけが来てですね歩く人は誰もいないということで、4 車線を逆に 2 車線に戻して、そして歩く歩道を大きくしちゃってそして且つ車はアウトバーン方式で関係のない人はみんなアウトバーンで大きい道で行っていただく、本当にまちに用事のある人は生活道路に入り、そして且つ緊急の人はですね道に迷わず行ける。遮断はしないんですね。それで基本的には必要な人はですね各まちの何力所かに大きな駐車場を持つ。それはおそらく防災の意味も含めてだろうと思うんですが、そういう大きい公園的な駐車場を持って、そこに車を停めて用事をたしていただく、そうすることによって旧市街地が活性化をしたという事例がいくつもあるんです

ね。だからそういう今はすぐはできないけども、100年後にはそういうまちにしたいよということの言葉が本当はこの中にどっかにありますかということにつながるわけで、その辺いかがですか、市の皆さん方。どこに当てはまりますか。

委員

この一番上ですね、事業メニューの新駅からの公共交通ネットワークの整備っていうのは、今の部会長の話にも絡んでくると思うんだけど、新幹線東海道新幹線なり東北新幹線でいくつかの駅に降りてみるともう駅前から確かにどーんと広い道があるけども、非常にこう寒々としたところが結構多いんだよね。ただ、だから駅前当然広い道路が新幹線の駅ができた場合作るっていうことも結局逆にそこら辺に何ていうか、いつも何か見かけてたような風景が逆に閉散というか何かこう人工的なそういうものだけが残ったというのがよくいくつかあるんですね。そういう意味では先程配られた新黒部駅のこれはよく考えられた非常に何ていうかイメージとしては何かよくできてるあれだと思うんですけども、それと何というかもう1つ、道路のイメージっていうのは、そこに住む人にとっての道路と、それから他所から来る人がやっぱり第一印象をどう受けとるかっていうそういう意味の2つであってですね、ですから非常にそこへ黒部に来た時に、車で来た人達はその道路を何と思うか、だいぶ前の話ですけど細川さんがまだ熊本県知事されてた頃ですけど、熊本空港から市街地、熊本市内へ行く道路をものすごく整備されたんですね。ただ整備されただけじゃなくて、とにかく全部その両側にこう花を一杯植えてあってですね、ものすごく何か印象強くて何か熊本というとすぐその印象があるんですけども、何かそういう外来者にとっての道路とそこに暮らす人々にとっての道路ですね、そういう意味で駅からの宇奈月温泉に至るそういう道路をどう印象付けるかというやっぱりこれは景観ともなると思うんですが、景観も含めたそういう道路のあり方、それからここに暮らす人にとっての生活道路、あるいはその公共交通。私ちょっと個人的なことってあれですけども、ここに暮らし始め最初は車を2年間持ってなかったんです。一番困ったのは、本当に公共交通だったんですね。三日市に出るのに電車が1時間に1本しかなくて、その都度タクシー呼んで年寄りを病院に運ぶという、まあその面倒くささからつい自分で車を持つようになったんですが、それからせっかく黒部市にいくつか文化施設・美術館とか何かあってもやっぱり車がないととても美術館にやっぱり行こうという気にならない。やっぱりそういうせっかくのそういう様々な施設やそれからいろんな自然遺産みたいな財産、やっぱりそういういったようなものを活かすのは交通ネットワークだろうと思うんですね。そこで当然生活と防災とそれから外から来る人達がどういうイメージを持つか、今からすればやっぱりそういうような考えた道路のありようっていうか、何かそういうような体系的にこう都市基盤ということであれば、何かやっぱり道路っていうのは非常に都市基盤に一番大事なものだというふうに思いますので、当然いろんな道路の今道路特定財源で財源の問題を議論もされてますけども、それから国道8号線のバイパスとかもう既存のそういうものもありますけども、そういうものも含めた何か体系的な道路の何ていうか生活道路と文化道路とそれから何ていうんですかね、そういう産業道路とかそういう様々な要素を道路っていうものは持ってるわけで、そういうのをこううまくキャッチフレーズ込めてPRしてく必要があるんじゃないかなあともうちょっと。それは特にこの場合冬場の道路ですね。宇奈月温

泉行く時のその道路のたいへん今除雪がよく進んで、冬場はもう安心して宇奈月へ車で
行けるような今時代になりましたけども、そういう雪対策を含めた何か道路という、何か
そういうここにみんな盛り込まれてはいると思うんで、そういうのをもう少し何かこう一
目で黒部の道路はこういう道路なんだという分かるような何かそういう整備の仕方はあ
りうるのかなあというふうに思いました。

事務局

よろしいですか。

部会長

どうぞ。

事務局

先程まあ道路の役割については入善土木の所長さんの方からお話いただいたわけであ
りますけども、この中でも道路分担という中で、基本的には道路の役割りというのは走
行性というのが今まで重視されてきたわけですし、それと街中においての先程言われたよ
うに防災機能、それとコミュニティ機能というものの分類がされてきたわけであります。
最近では更にいわゆるシーニックバイウェイとかいわゆる景観形成、道路との景観という
ものが出てきたわけでありまして、この位置付けとしましては、一般国道8号ある
いは主要地方道の整備促進については、走行性のいわゆる機能という形の位置付けになり
ますし、都市計画のいわゆる前沢・植木線、あるいは南線の整備促進については、街中
については防災機能あるいは市姫通りのようなコミュニティ機能というものをこれからも
重視していかなくてはならんだろうと思えますし、現在黒部市には400の市道を完備して
おりますし、さらに延長としましてでも400kmの延長を機能しております。そういった
中で、いわゆる生活基盤に密着した部分ということからいけば、その下に出てきます生活
道路の整備、いかに幹線道路だけに設備投資をこれからどこまでやるのかという大きな
問題もやはり日時の生活にどう安全の面もございまして安心の面もあるということで、ど
こまで投資分担するのかということも必要になってくるだろうというふうに思っており
ますし、大雑把にみれば今議論にありますような役割分担からいけば国道・県道、それと
幹線道路としての街中の都市計画道路、それと生活道路をこれからもやはり住民からの要
望の高いところ、できるだけどうしていいのかという議論だというふうに思っておりま
すので、大雑把な考え方としては概観とすればそういう考え方で我々考えているというこ
とでありますので、ご理解をいただきたいと思えます。

部会長

はい、どうもありがとうございました。急に深いところまで掘り下げていただきまして
ありがとうございます。

はい、どうぞ。

委員

一番上にですね事務局から説明のありました施策の中分類で事業メニューのここから入ってしまいますと、これは何ていうか具体的な非常に事業のメニューとしてですね、そんなに変わるものではないと思うんですね。ですからこの事業メニューの説明を一つ一つ聞いてみましても、それは全部いるものだということになってしまうのだと思います。冒頭の部会長松野さんのおっしゃったそれに私だいたい100%賛成するんですが、こういう細かい一つ一つの具体的な事業のメニューと別のものももっと必要なんだという議論もいいのですが、委員さんのおっしゃったのもそういうものの先に、何か黒部市建設の理念、子供を大事にする市だよという民間がそうであるかないかは知りませんが、そういうポイントをですね出してそれに基づいた政策ベースというそれがこの冒頭の絵なんだろうが、どなたかがおっしゃったパンチ力ないなあと。こういうことなんだと思いますね。

部会長

これですね。

委員

あーそうそうそう。その辺それがパンチ力ないもんだから、子育ての視点でまちづくりをして欲しい、したいんだとこういう議論が出てきて、あーそれもあるなあと思って、こういうことになってきて少し議論が混乱してるんだと思うんですね。私は同じように視点が視点を明確にして欲しいということからすれば、一つは観光の視点でのまちづくりだと思う。そういう観光視点で、つまりこの具体的な事業メニューというのが、縦の並びだとすると、横にしようとする考え方が冒頭で市から示されているこれでいいのかという議論に戻ってしまうんですね。だからそれが美辞麗句という言葉にもなってるわけで、美辞麗句でパンチ力ないな、具体的によく分からんなあというのが部会長の冒頭の話だと思って聞いておるんですが、やはり観光の視点ということと暮らしの視点、暮らしの視点であればこれは上下水道とかこういったような議論もありますけども、コンパクトシティということでどうしてもやっぱり暮らしの視点で考えると話がいくのだろうと思います。縦横の関係で議論しないと、縦だけでやると何かここに入っているか入っていないかだけの議論になってしまう。議論の深まりがないと思うんですね。観光の視点と暮らしの視点ともう一つは部会長が言いました歴史の視点だね。やっぱりね、日本はこの60年間急ぎすぎたと思うんですよ。走りすぎたんですよ。だから1,000兆円を超える借金を抱えて国民は豊かだが自治体は駄目だと、国は駄目だとなつてくるわけですが、そこらについてのね基本的な財政再建なのか何ていうか事業優先なのかといったらね、このさっきの話でも今回全部資料見ましたが、市の方針でいうのは財政を急ぎすぎないで公共投資を急ぎすぎないで財政をもうちょっとしっかりしようじゃないかという議論が最後の最後のところにちょっとあるだけなんです。私はこの中で、この議論の中で全ての部会でちゃんと黒部市の財政の状況はこうです、限界はこうですからというのを出していただきたいをお願いしてるわけですよ。それを出さないで市長がタウンミーティングで具体的な事業で財政の範囲でやれることだけを今度リストアップするんです。やれることを政策にするんですと言っておられる。じゃお金いくらあるからやれるのか、いくらしかないからこれは止めるん

だという議論をこの部会がしないのかどうか、あとは俺たちに任してくれと、こういうことであるのか分かりませんがね、やっぱり財政の限界というものについてはこうですという、そういう視点で全ての部会が議論できるような、そんな仕組みであって欲しかったなあところ思っております。一つは観光の視点と。これはね、これからの時代私はいつも美しいまちをつくと、美しいまちづくりを言ってるんですが、全てのところに観光の視点というそれが入ってこない、縦横の串が合わないと思っておるのですけれども。それからもう一つは2つ目の暮らしの視点というのは、上下水道、それから安全安心のまちを作るとなるには、政策はそこなんですけれど、それを突き詰めていくと、これまでは全国どこも同じ行政同じレベルで暮らすというのであったが、富山市がコンパクトシティと言ったもんだからどこでもコンパクトシティという言葉が流行っておるわけで、黒部市においてもやっぱり全ての地区で全ての同じような条件の暮らしができるようにという政策で進めるのかどうかといったら、やっぱり部分的に三日市なり宇奈月のあのまちなりどこか定住人口のデータはさっき33ぐらいと聞こえましたが、そこらもどういふふうなまち、中心街をしっかりと支えていくのか。どこは単なる住宅だけでいいのかというふうなことは暮らしの視点で考えれば、それを定住人口、D I Dという言葉は私はまだ知らないんですけど、そういう細かい分析はやっぱり把握して行政はやって欲しいもんだと思いますね。これまでは人口増だけやったん、今から30何年前はこういうような審議会の時も5万人口といった時期があったんですよ。冗談じゃない5万なんかになるはずはないという委員もおられました。その後は4万人口という、そういう議論もありましたね。それが3万5千になって今合併をして4万3千になってますけども、そのようにトータル人口だけしかそれなりのこういう委員会では議論されなかったと思うんです。ところが今は地区別に昔でいう明治時代の村別にあるいはもっと細かい字別にどれだけこの部分はこういう方式にしていこうというふうな何かきめ細かいそういうことにしていくのじゃないかなあって富山市あたりがね。富山市の中心街だけをいいがにして八尾とか婦中町とか知らん顔するということに、私は初めお手本かと思うんですよ、合併というのは、つまり日本の社会全体のように東京一極集中なってくると思ったが決してそうじゃないでしょ。そういうふうなことも本当はこの中で議論できたらどうかなあと思うんですが、そういう視点をちょっと行政の内部でも検討していただいて、自分達の頭の中に広めていただく、そんな進み方をお願いしたんだと思います。道路のことについてはですね、道路の概念は確かにあります。だけど部会長に賛成したいのは、ヨーロッパでは10年前にもう道路のあり方ということの概念が変わったんですよ。日本は戦後マッカーサーから馬鹿にされて信じがたい道路だと言われたもんですからハッスルしていい道を作ってきたわけですよ。道路デザインだってマッカーサーに馬鹿にされたから俺たちしゃくに触るといってやった。そういう感覚がなかったとは言えない。だからそれをいつまでも続ける必要はないということなんですわ。このことをね、道路という道というものは、そういうふうには高速道路という走らせんなん道もあるが、黒部市内の道を人を全部自動車が快適に走らなきゃならんということはありませんと。市姫通りの時に何べんも何回も何十回も言いましたが、あんまり理解していただけませんでした。わずかに200mの市姫道路を50キロ制限で走るか、そんなことはありえませんか。だから湾曲した道で走りにくい道にするという発想をどなたも理解してくれなかったということです。ならまちの中は走りにくい道路でよろしいわけです。

そういうふうな市道というのが町道とか県道とか国道とか高速道路とかいう専門的な部分は専門家にお任せしますが、やっぱりね道路というのは人間優先のまちの中をですよ、人間優先の道路にもうヨーロッパでは考え方 20 年前に変わってるんですよ。だから日本まではね、道路っていうものの考え方は、まちの中の道路の考え方を変えようということは行政ではされない。つまり行政の仕組みっていうのは、一旦決まったら 50 年も 100 年も変更しないんです。そのことを部会長冒頭で指摘したので、私も同感ですから、一応これからの計画審議の中で何ていうか縦横の関係で議論があったことを留めといて欲しいと思います。これからやっぱり考える時に、そういう議論もあったということを取り上げていただかないと、審議している意味があまりないかと。このつまりもう一度言いたいののは、施策中分類はこれで網羅して間違いないです。ところが事業メニューのこれをどうするかこうするかという議論も大事ですが、これらの横串を指す考え方を、どこかに留めて皆で認識して前進しないと、永久に全く同じことしかやらないということになります。ちょっとくどく申し上げましたが。

部会長

はい、ありがとうございました。

事務局

本来ならば事業メニューの説明をして考え方を説明してやればどうなのかなあと思うわけでありませうけども、なかなか時間的にないということで、いろんな意見が出てくるわけでありませうけども、今のコンパクトシティにつながるかどうかということだろうと思います。なるかどうか分かりませんが、の大分類の市街地・住宅整備の中の施策の中分類、住環境整備事業、この中の事業メニューの中で、宅地開発の促進・支援というのがございます。これはどういうことかと言いますと、新市土地利用計画の策定というのがございますけれども、基本的には市街地区域と黒部市の中では用途地域、将来商業あるいは工業を推進する地区、それと農業を振興してく地域をどうするのかという極めてきちっとした整備がどの市町村もされておるわけでありませうけども、やはり従来は非常にまあ市街地の土地価格というものが非常に高かったというのがございまして、どうしても農振地域の方に商業も出てきますけれども住宅も出てきたと、できるだけ安い方安い方とこれは全国的にはそうだったと思います。ただ当時今から 30 年前ほどからいけば、牧野あるいは三日市の中心商店街の土地価格といえだいたい 50 万くらいの価格、それ以上価格してた坪でね。でも現在は 15 万から 20 万くらいにまで下がってしまったと。これは富山市においても高岡においても一緒だろうと。であるならば農振地域のところで住宅開発がされて、我々としてでも水道を持ってはなくてはならない、あるいは下水道を持ってはなくてはならない。それは今はだいたい荻生・大布施においてでも民間の住宅販売をみてみますと十何万がかつとると。今三日市市街地においてはだいたい 15 万から 20 万になってきた。そうするとやはり社会インフラが整備されたところにやはり引き戻すべきだということで、ここの宅地開発の促進というのは、市街地における民間の皆さんが宅地開発されたものについては、推進してこうじゃないかと。そして郊外においてはできるだけその抑制してこうと。これはまあ皆さんの選択肢でありますから強制はできないという面があり

ますけれども、そういった中で、国の政策においてもまちづくり3法の改正もございましたし、国全体としてはそういう方向になっていくだろうという中で、今我々とすればそういう中で宅地開発の促進・支援という形でできるだけ街中に住宅を集積したいという考え方をしておるわけでございます。

部会長

よろしいですか。ありがとうございました。具体的な例えば富山市であれば市内にすると50万あたるとか。そういう施策がありますが、その具体的な何かありますか。

事務局

今ほど申しましたように、43,000人の政策規模でそこまで果たしてやりきれるかどうかっていうことだと思います。

部会長

ないんですね。

事務局

そうですね。ニーズがあるのかどうかっていう問題と政策的に確立できるかどうかだろうと思います。

部会長

ニーズがあるかニーズを呼び起こすかは別で。

すいません。話があっちいたりこっちいたりしとりますので、まず最初ですね、

委員さんから言われましたそのこの6つのまちづくりの方針の中にですね、大きなことにもう一つ付け加えるべきじゃないのかということなわけですが、例えばコストのかからないコンパクトシティの構築とかですね、あるいは環境に優しいコンパクトシティの構築とまちづくりだとかそういう言葉何かしらもう一つ必要じゃないのかというご意見だったというふうに思うんですが、まずそこから一つ。今日はその辺でいいのかなあというふうにも思いますが、どなたかご意見あれば。その前に行政の方から何かそれについてのこれはこの中に入れてんだという話であればですね、一つ。

委員

いや私ね、この6つのこれに付け加えるといったら具体化しなきゃならんから、行政は駄目なんですよ。皆さんもう決めてしまってるの案として。

部会長

いや、それはないですよ。

委員

いやいやもう決まったことはね。

部会長

いや、変えることはできます。大丈夫です。大丈夫です。はい、どうぞ。

委員

私が言うのは、横串を指す指標を尊重して下さいませとこうお願いしとるんです。横串を指す指標というのは、この3つの基本目標かどっかここに心優しいとか観光の視点で人がこれから来てくれるまちに、美しいまちにしてこうやないかという視点がここにどっか入っておるべきだったのが入ってませんねとこういいたいわけ。つまり基本理念か基本方針のここにこういうのがあったら。

部会長

活力の中にありますけどね。

委員

うーん、活力、まあちょっとあるんですね。

事務局

部会長、よろしいですか。

部会長

はい、どうぞ。

事務局

先程部会長さんの方からも100年の計というものを見据えた上で、どこかにそういうことをまちづくり方針に当てはまるのかというお話もありましたし、委員さんの方からもいろいろご指摘をいただきました。まず委員さんおっしゃっとられる横串の部分でございますが、まさに今言われました基本目標というのが、我々とすれば横串の部分だろうと思っております。この3つの基本目標と基本目標達成するための6つのまちづくり方針があるわけですが、この3つの基本目標を達成するためにどれがどれとリンクするということにはなっておりませんで、6つ全てのまちづくり方針に従って施策をやって初めて3つの基本目標が達成できるんだというような考え方で整理しております。それでご指摘ありました観光の視点、暮らしの視点、歴史の視点ということでございますが、活力の中では観光ということも軸的にも入っておりますし、暮らしという視点では安心の中のところにもまあその部分で意味をしてるのかなあと。あとまあ歴史の視点、自然との共生ということも十分関連があるのかなあとというふうに思っておりますけども、この辺をインパクトが弱い、じゃあこういうふうに修正をすべきじゃないかというそういうご意見につきましては、全体の審議会で合意が取れれば修正もできるところだというふうに思っております。ご承知の通り、合併時に新市建設計画を策定をしたわけでありまして、その際には旧黒部市の総合振興計画あるいは旧宇奈月町の総合計画の理念を引

き継いだ上で新市建設計画が策定されたわけでありまして、その新市建設計画をベースにしながらこの振興計画、黒部市初となる第1次総合振興計画を策定していくということになっておるものですから、基本的には将来像とか基本理念とかという部分はいささか新市建設計画を否定することにもつながるといこともございますので、できるだけ変えたくないというのが事務局としての考えでございますが、それにつながる部分については審議会としてこういうことで行くべきであろうということであれば、修正の余地があるというふうに考えております。

部会長

ありがとうございます。今のことにつきましては、おそらく新市のものが作られている時には、おそらく国の方針はそのまま変わってませんでしたよね。今まちづくり3法がようやく改正されたということで、大きく国の方針そのものが大きく変わっていったということでもありますので、その中ではやっぱり富山市とか高岡市に遅れをとってはならないということでは、はっきりそういうことを明記することが、市民に対するアピールにつながるんじゃないかというふうに思います。基本理念を否定するわけじゃなくてですね、アピール度が違うんじゃないのかと。私共が例えば平成9年から2000年の時からわめいていたものがですね全然皆さんに理解を、まちづくり協議会として市民の方に訴えてたのがなかなか理解していただけなかった。ところが今森市長だとかあの辺の皆さん方ですね、コンパクトシティということ言葉をの中で皆さん理解してらるわけですね。富山県中の人があっコンパクトシティここだったら分かるよ。西欧型のまちづくりっていても分からんよ。だけどコンパクトシティっていうのは分かるよ、という形になってきている。それが黒部市にあってもマッチングしている。そういうことではですね、分かりやすい言葉をこの中に入れるということは、これは大きなことではないかなあというふうに思いますね。

委員

ちょっといいですか。タウンミーティングなんかで市長の話を聞いてますと、やっぱりこの総合振興計画は10年の計画で、10年で実行できることをきちっと並べて推進してこうと、この情熱は全く分かるわけでありまして。しかし、さっきあえて私ね、歴史の視点というのを追加したのは、やっぱりね部会長が冒頭に言った、やっぱり100年先によかったなああの時のまちづくりよかったなあと言われるまちにしたいというビジョンなわけですよ。これね10年間だけでっていったらね、これはぎちぎちのいわゆるビジョン、コンセプトになってしまう。具体的な事業は10年でよろしいです。基本的なさっきの黒丸チョコのあれは10年でよろしいと思うんですが、つまり10年で年々何ていうか、更新してくならそれでいいけど、10年間にやれることを言ってあまりぎちぎちに考えすぎると10年後黒部市はないのかと、そうじゃない100年後までにまちにしてくその先の10年だという考え方、そういう考え方のことを言ってもしょうがないのかもしれないけれど、考え方をやらないでは何となしにつまらんなあという気が、不安だなあという気がするわけですよ。不安だという気がしますね。10年をぎちぎちに考えてしまったら5年後に世界中の何かそういう政策が変わるかもしれない。中央官庁の政策、日本の政策変わるかもしれない、そんな時どうするんですか。

部会長

今この例えば次回までにそういうものをこういう文句を入れればよいってことがあれば検討していただくということにしてですね、それができあがると例えば道をつけるのにもいろんなまちをつくるにも楽しく、おそらく能登部長が楽しくて寝てる暇がないよというふうになると僕は思っているんでありまして、そういうことで時間が余りありませんので6つのまちづくり方針の中にもう一つ加えようよという提案を全体会議でしようということをしてですね、この場で決めてよろしいですかね。それが成り立つかどうかはとやかくとして。はい、どうぞ。

委員

ねえちょっといい。美辞麗句を修正して具体的に分かるように横串のコンセプトをどこか変えられんかコンセプトを先導するように変えられんもんかという提案です。

部会長

ですが、ええ分かりました。でもこれをですね、全部変えるということは至難の業でございます、一行だけにさせていただくっていうのは一番いいんですが。どう、名越さんいかがですか。その可能性がある。

事務局

先程も事務局の方から説明しておりますけども、いわゆる新市建設計画というもののいわゆる理念とか考え方を全部引き継ぐというのが合併のある意味での合意なわけですよ。そういう中で、いわゆる新しい総合振興計画を作ると。それはその建設計画というものを時代に合わせながら深めながらやってくわけなんですけれども、そういう意味で枠組みとすれば新市建設計画の枠組みっていうものをかなり重要視してかなきゃいかんんじゃないかというふうに思っております。それで、今の例えばいわゆる委員さんの言われました観光の視点、暮らしの視点、歴史の視点というようないわゆる考え方というようなもの、そういったものについて、例えば総合振興計画の基本構想の中にどういうふうな形で反映させてくかというようなことにつきまして、その反映の仕方につきましては検討させていただけないかなというふうに思います。それで、そこでどういうふうな形にするとかという話になりますと、少し検討する時間がありませんので、そういうふうなことにつきましてまたこちらの方から提案させていただくというところでいかがでしょうか。

部会長

ええ、ちょっとはつきり最後。

事務局

要するに、こちらで今ある部会の方で、ここにどういうふうな例えば基本方針の中のここにこういう言葉を入れるというような、あるいは訂正するというような決議じゃなくて、基本構想の方の全体の中でどういう形でコンセプトなり考え方をしていけばいいのかと

いうことの内容含めまして、少し検討させてもらえんかということでございます。

部会長

そういうことでよろしいんでしょうか。

委員

それでね、よろしいと思います。上手に消化さえしていただければ嬉しいですよ。例えばですね、の公園・緑地の整備といったら必ず三日市のどこかのところに何々公園をつくるという話になります。しかしそうではないんですよ。道路全部を公園にするという考え方もできるわけです。ですから何かね、公園・緑地を整備するというと、どこかに具体的に場所をつくってそこに何々都市計画何とか事業というのを当てはめて何か新たに人手をかけた公園をつくるという、そういうこれまでの行政の考え方を変えてくヒントなんです。全てが町並みもいろんな口ケーションで、やっぱり100年の歴史ある町並みを歩きますと、いい気持ちになれるわけです。それは公園的な要素が街路にあるからですよ。だからそのことをご理解いただいてですね、企画を進めていただけたら、まちづくりということについては非常に範囲が広くて曖昧な言葉ですけども、まちづくり系の役所が対応してもらえないものですから、私はちょっともう一度まちづくりとは何ですかと、21世紀これからの黒部市のまちづくりをどういう考え方で施策を進めるんですという言葉が、ただお金を投じて場所を決めて池やら樹木やら植えて公園をつくるという、そういうものじゃ決まっていなくてこう言いたいわけです。ソフトですよ。だから私はハードからソフトに考え方を考えましょうと、こう申し上げておるわけでありましてね、ソフトを考えないハードは意味はありませんですよ。いくら建物造ってもどういうふうに使いなすんだという使いこなすことを相談しないで造っても駄目です。コラーレを造った時にはソフトを先に2年やらかけてそれで造ったので、いろんなイベントがあるいは活動が全てすぐスタートできて、今も継続してるわけですね。それをねそういうことはしないでハードを造ればいいんだと。お金が予算がどこやら何やら事業で予算がついたから今年度中につくりましょうというのはやめて欲しいというのが私の意見ですよ。

部会長

はい、ありがとうございます。

部会長

整理しときます。名越さんの話だとこの新市建設計画から一步も出れないというのであれば、この審議会はやる必要はない、部会もやる必要はないので。

委員

本当だよ。

部会長

それはいいんですね。この基本を全部否定するということではないので、それに付け加

えてこうであるべきでしょうと。時代の流れがありますよということは、やぶさかじゃないということで、お二方の意見がちょっと違うような感じがしたもんだから、その辺確認をしていきたいんです。要は付け加えもいいというのか、付け加えちゃ駄目だというのか、その辺。

事務局

その付け加えるうんぬんという話につきましては、その部会の意見としてはこういうふうな意見があったという話では、全体会議に出してそして全体会議の中でそういうふうになればなることになるんじゃないかということでございまして、ただその基本的には我々は建設計画というものは重要視したいというところがございます。要するに基づくわけで一步も出れないとかそんな堅い話はしとるわけじゃないですけども、新市建設計画というものに。

部会長

もう市長は変更している。新市庁舎の建設、この中では分庁舎方式ってなってますよね。

事務局

まあ、おっしゃる通りで。

部会長

だから、市長はもう変わってるわけですよ。

事務局

まあおっしゃる通りですね。それでそういう意味では市長が合併協の時にもそういった話をしとられますし、それから議会でもそういう表明をしとられるということがございまして、そういう意味では新市建設計画はその時に上がった話として、それが出てきているというところがありますね。

部会長

だから市長は良くて私達は駄目だってというと。

事務局

いいえ、駄目だって言ってるわけじゃないんで。

部会長

はい、分かりました。それでは、はい。

委員

私ちょっと浅はかな意見かもしれませんが、先程言われた建設計画ですね、それにしても時代の流れによって変わっていくもんですから、本質は変わらんかもしれんけど、

付随したものは変わってくるのは当然だと思います。だからそれはそれとして、先程からいろいろ出ましたけど、基本目標とか方針とかですね、これらに殆どが包含されているというふうに私は思うわけですね。だから軸とか文言とかがこう変わるのとは仕方ないことで時代の流れですから。そういうものを別に基本方針を変えとかそういうことじゃなしに、中身をこういうふうに変わってきたというような考え方でいいんじゃないですかね。

部会長

分かりやすい言葉に換えると。

委員

ええそうです。計画書に横文字が多いとかこの間の審議会でもありましたね。横文字が多いからそういうものを少なくせとかそういうこともあったので、やはりほとんど市民にね分かりやすい言葉でやるべきだなあと、そうするとその計画書を見るとやわらかくなるのかなあというふうに理解されるんじゃないかなあというふうに思いますけど。

部会長

はい。

委員

すいません。

部会長

はい、どうぞ。

委員

新幹線の駅がこちらへ来て今新駅に来て、新幹線は当然こちらの東部地区のどこかにそのために市が私ちょっと分からないんですが、広域的にただ今合併しなかったところの2町ですか、ああいうところとか言っていていいかどうか分かりませんが、魚津市とかも関係する、例えば交通ネットワークといっても黒部市だけで交通ネットワークといってもできないんで、新幹線に対する交通ネットワークですよ。観光ネットワークといっても小川温泉もあるだろうしいろいろ一つだけでいいかどうかと思いますし、その他観光・商業的なそういうものを判断する予算がここに出てませんが、非常にこれがいいかどうかは私も分からないんですが、次の会議に財政のことが入って優先順位等が分かってくるんだろうと思います、その辺の時に、例えば新駅を作る時に広域ネットワークですか、そういう時黒部市のこの会だけで決まってくるんですかね。それと仮に何か案を作れば何か情報交換かその納得いく何かそういう場面があるんだろうかということと、あといずれこの計画があって実行性っていうか、夕張市みたいにならんようにあの時は非常に華やかにやられたらしいんですが、人口が減って1万いくらになってしまったと。そのようなことになっても誰も責任者がいないっていうような格好にはならないようにチェックシステムですか、計画の時点でもそれをやる判断、それからやった後のチェックをどういうようにしてやってく

のかも、計画ができれば大万歳ということでよく浮つくことが多いんですが、できた後のチェックが一番大事だと。具体的には分かりませんが、ただこの事業メニューは当然やるべきことで、当然ていうかその具体的な内容が分からないのでちょっと分からなくて、公共交通ネットワークってという言葉ではいいんですが、下の方にバス交通網の充実とかそういうものも含んでいるのかどうか。それを含んでいけばこういう項目はなくなるだろうし、それならば具体的なものが実際行われて、そして財政がその計画を実行するというのをやっていただきたい。

部会長

はい、いかがですか。今の2点についていかがでしょうか。はい。

事務局

いまほどご質問いただきましたちょっとお名前は分かりませんが、もう一度。

委員

です。私ね、新幹線は黒部市だけのもんでないという感じがするもんですから、財政の時も黒部市全体負担してその負担率とかそういうところ分からずに言ってるんですが、それをそこに非常に重みを置いて非常に考えていかなんがかどうか。それを振り分けてこっちも整備されるのかどうか、その辺が自分自身で考えるべきなのか、隣と考えると今一番効果的なものを造っていくべきじゃないかということをやちょっと考えました。

事務局

すいません。先程会議が始まる前にパンフレット概要版をお配りいたしました。一応これにつきましては、今日の審議委員の皆さん方の半分ほどがですね、当時の駅周辺整備計画検討委員会1年だけやってまいりました。メンバーの中に半分ほどおられますので、皆さんよくご存知だと思います。しかし残りの方っていうのは分からないなという思いで今回パンフレットを先に配布いたしました。一応今のご質問ですが事業メニューのまず2つご質問ございました。まず新駅からの公共交通ネットワークについてということでございますが、一応これは交通ネットワーク、私共が議論いたしましたのは、交通ネットワークの中には、まず道路交通網でございます。これは8号バイパス、それと今駅にアクセスしようとしております背骨道路、それと農免道路その他いろいろあるわけでございますが、そういった交通網のまず整備、それともう一点、要は鉄道ですね。鉄道には当然地鉄あるいはJRそれとバス路線とそういったものを整備する必要があるのではないかとということ。これは大まかにここでは書いてございます。下の方に公共交通網整備ということで、先程言われましたバス路線とかコミバスいろんなものが書いてございますが、捉え方としては駅周辺整備と中分類2つに分かれてございます。公共交通網これにつきましては現在のある公共交通網を再度新幹線ができた場合、あるいは今の状況をどうしようかということで、こちらの方に分類させていただいております。

それともう一点ですが、広域観光ネットワーク、これは昨日第2部会が行われたわけでございますが、当然その中のメインはやはり観光ということで、一応観光、広域観光ある

いは新駅当然できた場合には当然宇奈月町と合併いたしました。当然新駅から黒部峡谷、あるいは新川広域圏のいろんな観光資源がございます。そういったところを観ていただく。それとあと行政区域にない大きい視野では立山・黒部アルペンルートも視野に入れた広域観光も検討しております。それで先程魚津市とか交通ネットというお話ございました。今その新駅周辺には確かなバス路線が設定されておりません。従いまして新幹線当然新駅ができた場合には、当然魚津市も視野に入れた新川広域圏全てを頭に入れて当然ネットワークを検討していかなくちゃならないなという思いではあります。それと負担うんぬんというお話がございましたが、一応今の魚津市さんとかその負担しとるとかどうとかっていうお話がちょっと私理解できなかったんですが、今その負担、新幹線に対する負担というのは、新駅、駅を造る行政、要はメリットがある市ですが、その要はトンネル部分を除きまして俗に私ら明かり区間という言い方しております。例えば黒部川の左岸から第1トンネルの入り口の方まで、その部分は行政が負担しとるような状況でございます。以上ですがよろしいでしょうか。

部会長

えーと、あと一番目のところですね、広域に亘るものでそういう検討機関とかですね、そういうものは既にあるのかどうかという質問がありました。

事務局

検討機関、ああそうですか。これにつきましては、委員会のメンバーの中に一応魚津市さんも入っております。はい。新川広域圏の全ての関係機関の方もおられますので、一応その中では議論はさせていただいております。

部会長

実務者とか何かの会議で予算をじゃどうやって配分しようかとかそこまでは。

事務局

そういう具体的なことまではまだこれからの話です。

部会長

ああ。

委員

いいですか。

部会長

はい。

委員

私ね、実はこういう会議に出席して、ここで意見を言うべきですけどね、ちょっと今感

じとるわけですよ。といいますのは、私らご存知の通り観光一本で 50 年位通したんですね。ちょっと部会が違ってないかなという気がするわけですよ本当は。実は。今現在商工会長なものですから、第 2 部会ですか、工業・商業担当のこういうところに入っておればですね、こういう話しやすかったような気がするんで、本音を言うと。

部会長

飛び越えてでもいいんですよ。

委員

やはり予算とかいろんなことを聞いて感心してるんですけど、やはりこの新黒部市ができたこと、ここに大きなテーマがある。やはり市民としてはですね、住みやすい市であり環境の整った暮らしやすい市であるということが必要なわけですよ。そう意味におきまして、やはり具体的な部分ですね、どのように進めるのかということはちょっと私こみると、下水道整備はね今ちょっとお聞きしたいけど、何%進んでるとかということなんですよ。一つは。下水道整備が。

部会長

すぐに、はい。

事務局

現在宇奈月と合併しまして、ご存知のようにまず宇奈月エリアにつきましては、栗虫ですか、栗虫の地区以外を除きましてほぼ、それも含めてですが、ほぼ 100%近いもので整備を終えております。旧黒部市におきましては、現在整備率的なものからいきますと、約 60%くらいでございまして、ただ下水道実際処理利用できるパターンの整備率につきましては、公共下水道、あるいは農業排水、農業集落排水、合併処理につきましては約 85% 近く現在整備進んでおります。

委員

あのですね、今のパーセントとだと相当進んでおるわけなんですね。

事務局

そうですね。県内的にも下水道整備率に関しましては、上位の方にいくんじゃないかという状況下ではあります。

部会長

そういうことだそうです。 委員さんその他どうですか。

委員

宇奈月の場合はね、相当やはり温泉地があったもんですから、相当早くから下水道、まあこれ予算も相当早くついてきたんですね。ですから今そういう暮らしということも背景

にあるかもしれませんが、やはり新市なった以上は新市らしくですね、やはり全ての市民がそういう快適な暮らしを共有できるそういうことが大事なのかなあと思ってるわけですね。これが都市基盤じゃないかと思うのですね。いろんな意味で道路問題、あらゆる問題が大いにあります。 委員からいろいろありましたね、観光協会長としていろいろ観光問題とかに関心がおありだろうと思うんですけど、私観光については相当発言できると思うんですけど、ちょっと今さっき言ったようにちょっとこの部会っていうのは場違う感じしてね、ちょっと実は言いにくいっていいですか、その辺ちょっとありますんで、あの申し訳ないと思っているのです。

部会長

市を責めるわけにもいかないですからね。そういう意味ではですね、観光の視点から例えば市街地整備のですね、景観の美しいまちの形成とかですね、これはこれからの未来型観光の中ではぜひとも必要な部類でありますから、その辺をぜひとも強調してお話を願えれば。

委員

いいですか。ちょっと一番初めに私申し上げたのは、今 委員さんのおっしゃったように、我々行政の専門家でもない、そういうもちろん専門的な知識皆さん持ってらっしゃる方いっぱいいらっしゃると思いますが、これだけ市の方で綿密な計画っていうか項目立てられて、しかもその前にこの新市建設計画があって、それをまあ基本的にはベースにということで、まあ表現を変えたりとか新たに項目を足したりあるいは削ったりとか、そういう実務的な作業は当然あると思いますけども、何かこの審議会で求められてるものっていうのは何かっていうのは、正直いってまだ僕もよく分からないんですよ。だからここに事業メニューの中でいくつか何も我々がここで議論しなくても当然これは行政としてやるべきことっていうのはだいたいあるわけですよ。そういうものは正直いってもうどんどんやって、今もやっておられるわけだし、そういうことは正直いってここに書かなくてもいいんじゃないかと極端なことをいえば。むしろこの新市建設計画をベースにしつつですね、どういう何ていうか市民に向かってあるいは何ていうか黒部に観光に来るよとそういう外部の人達にどうPRしてくのかという、何かそういうことをもっと分かりやすく何かこう簡潔にこの新市計画に盛られてる精神をより魅力的なものにするのがいいんじゃないかと。そういう意味で、 委員さんはむしろ都市基盤部会にいらして私は全然いいと思うんで。むしろ景観というものの一つとってみてもですね、本当に今のここに景観ということ確かに言葉でてますけども、じゃどういう景観でどういうその思想っていうか、どういう考え方で景観というのをここに述べられてるのかですね。極端なことといえば非常にああいふ乱雑な看板全部取っ払おうというそういう提言をしていいのかどうかとかですね、何かそういうことも、それから道路のことはさっき申し上げたんであれですけども、それからやっぱり黒部の財産っていうか、ということといえば自然・水とかですね、それから山並みとかそういうふうな自然財産をどうやって活かすかということは非常に都市基盤と私は相当関わってる部分であって、一応部会としては何か第1部会の共生ということになってますけども、何か都市基盤はやっぱりむしろそういうものとか一つフリーの形でや

っぱり考えるならば、何か一つ一つの行政の項目としてあれするよりも、何かもっとさっき 10 年を見据えていうふうになると、何ていうかあまりにも具体的な形で、じゃ予算があるのかないのかとか、そっちへどんどん行ってしまって、そしたらこれはできるこれはできないという議論でもそれあくまでも行政の責任上でやられるべきことであって、何か審議会としては何かもっと逆に素人の何ていうか無知、乱暴なこともあえて含めて何かもっとこうあってほしいという、あるいはこうすればもっと魅力的な黒部をPR、発信できるんじゃないかという、何かそういうことの方が、何かぜひ必要なようなちょっとさっきからの議論聞いてて、今 委員さんの意見を聞いて尚その感を強くしたもので。

部会長

あのですね、まさしくそういう先程の今日の本当のテーマはそれであったわけでありまして、ただこのその大きな視点から見ると、例えば先程の 委員さんが言われた下水道整備なんか 100%すべきだよ。しかし現実をみるとですね、田んぼの真ん中にぼんぼんぼんぼん家が建ってる。じゃそこまで本当に水道や下水道もってってですね、そのコストは誰が負担するのっていうことになるわけね。そういうことがさっきのDID、人口密度につながるわけですね。だから大きい視点からこの個別をみていくとですね、面白いことが次から次へと見えてくるんです。例えば僕はちょっと時間がありませんので走りますが、一般国道の8号バイパス線、これなんかも素晴らしいですね。入善は間違った方向にいました、黒部の場合はですね、中心市街地を取り囲むような格好でできあがってるんですね。それをアウトバーンにしちゃうとですね、面白い日本ではない西欧型のまちづくりのですね、逆にいうと簡単にできちゃうんですよ。

委員

僕はそういうのを提言するっていうのか、そういうことを私は。

部会長

そういうことをですね、次の2回目ですね、どんどん出していただいて、今日の話を引きちと頭の中に入れていただいてですね、これを見るとですね、じゃ三日市の保育所の周辺の土地区画整理事業はこれ金かかりすぎるからやめようだとか、この景観も新幹線の10年の中ではですね訪れる人をどうやってゲットするかっていうことがあるべきで、やっぱり景観なんですね。ここへ黒部のまちを見てですね、見せるまちにならなければならん。見えるまちにしなければならん。そういう時に、やっぱり景観が大事なんですね。その時に僕らだったらまあ個人的な意見ですけど、全部投入してもいいんじゃないのかっていう、10年間の投資はここだけじゃないのかっていうふうにも思ったりもするわけですが、これは黒丸付いてませんので、その辺はまた次回で議論していただくということで。

委員

ちょっといいですか。

部会長

すいませんが時間余りありませんので、手短に。

委員

ちょっと、はい。さっき新幹線の話が出ました。私はこれね全国に注目を集める黒部の新しい駅と新幹線駅というふうにするためには、ユニークな建築をぜひお願いしたいと。それは安藤忠雄さんに頼んで安藤忠雄設計の黒部新黒部駅となったらね、全国から見に来てくれるから非常にいいのじゃないかとずっと最近思っていますので、一つ発言させていただきます。

部会長

部会の提案にしていいかわかりませんが、またそれは。

委員

部会の提案にならなくても、個人的に意見が出たとこれでもいいです。

部会長

はい、よろしくをお願いします。それではですね、ご発言をいただいてない方、あの専門委員の方ですね、西日本旅客鉄道の宝島さん、何かありませんか。まとめでも結構です。

委員

そうですね。ちょっと今私も今日喋る質問とかですね、要は専門委員という立場を今ちょっとメモしとったんですけども、専門委員っていうのはどうやってどういう位置付けですね、要は聞かれたことに対して発言をするという場合もありますし、積極的に喋るといふ部分とその委員の皆さんと違うのかなあという部分も実は正直思っていて、ちょっと今メモしとったところなんですけども、ちょっと部会長の方からご指名ありましたもんですから、ちょっと私がメモした中でちょっと、私は今日の中でですね感じたことちょっと私させていただければと思います。

一つはですね、まとめということじゃないんですけど、私は富山県の上市というところに住んでるわけなんですけども、ちょっと仕事の関係もちょっと入ります。そういう意味では富山県こちら辺新川地区っていうのは私としては第二の故郷といことで、そういう観点からちょっとお話申し上げますとですね、要はこの第1からこの第6部会まで結局そのこの中身をみますと、1から5っていうのは要は先程いろんな話がありましたように、要は我々がこの黒部市さんあるいは市民の方ですね、それから他県いろんなところからお見えになる部分でのある面でのハード面、住んどられる方の生活基盤、ある面でのハード基盤の内容だと思っんです。ところが先程言われたように高齢者とか障害者とかあるいは防災とかいう観点からですね、結局全部ここみると、これそれぞれ部会でこう議論されるんですけど、どちらかというとなら第4部会とか第2部会だとか、かんではくと思っんです。例えば内容こうずうっとみますとソフト部分がかなりあるんですね、第2・第4部会。だけど先程言われるようにソフト面からいろいろこうハード面整備しないとということが出てくるはずなんです。昨日から各部会こう第2部会とか議論されてますよね。その中でも

この提言の何ていまいしょうか、施策部分第2、第4部会の中でこういうことを通じて例えばこういった整備をしていかななくてはいけないとか、例えば道路とかあるいはまちづくりの観点からという話がね、多分出てるんじゃないかと思うんですよ。そういうことをね、やっぱりそれを固定して我々議論してるんじゃないんですよ。そういうことを意見を踏まえた中で、あーそういう観点からもあるのかなということもやっぱり参考になるんだと思うんですよ。そういうことがね、次の今日はそんな話はちょっと出てこなかったからあえてじゃ私は思ったんですが、それは次回の中で他の部会からでも例えばハードでもこういう観点から、他の2・4の中からも、あるいは我々に関係することの中でね、こういう意見もあったよとどうでしょうかねっていうことも踏まえてね、総合的にどうすればいいかっていうふうにまた考えたらいいかなっていうのは、一つ私は思いました。

それともう一つは、先程いうように、人口分布図というのはこれはいるわけですね。そうすると例えば歴史・文化まちづくりという観点あるいは観光・振興とかいろいろな観点、今の現状がどうなのかという観点があるわけですね、そういった中でやっぱりここは守っていかうとか、あるいはここはこういうのは残していきたいとか、あるいはここはもっとそういうふうを活用していきたいなっていうもんが結構あるかと思うんです。そういったことやっぱり何らかの形で何も無いわけない中で、先程言われるどこまで整備進んどのかっていうことも分かりません正直。だけど今やっておるものを進めてけば終わるんですよ。だけど10年後には高齢者が私もちょっと母親一人しかいませんが、高齢者があった時にじゃそういう人達が10年後にどうなっているんかね。一人で生活ができるような状況になっているのかねといったらやっぱりそのソフト面のハードの中からハード面に關わるのは結構あるんだというふうに思います。ですからいろんな部会の意見もこう参考にしながらですね、そうするともっと違う観点で、いろんなどちらかという何ていうか第3部会はどちらかというともう金をかけて投資をしてやってくっていう部分ですよ。だからそれはもう簡単でやってもらえばいいっていう話に結果的になってしまうだろうと思うんです。そうじゃなくて、第2・第4とかいろいろ観光振興とか産業うんぬんとかそれから高齢者とかコストとか介護とかいろいろ関係の中でですね、バリアフリーの整備も当然まちづくりの中では整備してかにかあかんでいうのは、1項目在宅の中で入ってましたけども、本当はそういったバリアフリーっていうのはまちづくりの観点でどうしていかんなんとそういうことも本当は道路とかいろいろ観点中で出てくるんじゃないかなあっていうのは私共率直な意見でございます。たいへん長く喋りましてすいません。

部会長

ありがとうございました。今の意見の中でですね、各部会のまとめっていうか簡単なメモ書きっていうのは各委員の皆さん方に次の時までにお渡しできますか。

事務局

その予定でございます。

部会長

はい、そうですか。ありがとうございます。それと専門委員の方は自由に喋っていいん

ですか。私分らんがですけど。

事務局

先に申し上げておりませんで誠に恐縮です。協議の中で例えば部会長さんから指名された場合にだけ発言するというものでは決してございませんので、ご自由に。

部会長

すいません。そういうことで。

委員

すいません。でもいろいろ出てますもんですから、あくまで委員会というのは委員の中で議論なんですよね。我々が専門的な立場でいろいろ聞かれた時に基本的には答えるのが話かなあというのが我々の私としてはそう思っておったもんですから。

部会長

あー聞いてて専門的にそこはこういう話だよという時に言っていたら。

委員

こういう話だよってもらえた時に、部会長なりからどうでしょうかって今のご発言についてということではあるのかなと私思っと思ったもんですから、ちょっとどういうふうに関わっていいか。

部会長

あーそうですか、素人でありますからどうぞ発言していただければ。

えーとですね。それとですね、富山地方鉄道の 委員さん、一つお願いします。

委員

じゃ簡単にまず報告なんですけども、地鉄新駅の件につきましては、この12月の初め頃に初めて当社と黒部市さんとですね、ワーキングということではあるんな事務レベルでの調整をさせていただくことになりました。今後黒部市にとっていいようにですね、まとめていきたいというふうに私共も考えておりますのでよろしく願いいたします。

もう一つは、私共富山市のまちづくりあるいは中心市街地の活性化ということではあるんな会に参加させていただいてますけども、一つは富山市の失敗というと語弊あるかもしれませんが、住宅がですね、郊外に非常に広がってしまったと。その原因というのは大きな要因が二つありまして、道路整備ともう一つは下水道整備なんです。私自身もその住宅、永久に住む土地を探す時に、まず下水道整備がされてるかどうかでことがまず気になったことでして、結果的に富山市はそれをその幹線をですね、道路整備と共に下水道もほとんどですね幹線を整備してしまったということです。結果的にそれで住宅が広まってしまったと。今度これコンパクトなまちづくりをしようということで、いろいろ方向転換を余儀なくされてるわけですけども、こんなようなことも一つこれから黒部市さんも

まちづくりに頭に置いていただきながらですね、進めていってもらいたいというふうに思っております。要はやはりさっきD I Dの話もありましたけども、どこにでも下水道整備するっていうのはこれからはやっぱり変えていかなきゃいけないんじゃないかということが一つ。やはりD I Dですね、これちょっとヘクタールなのか平方キロなのか分かりませんが、人口密度とD I Dとはちょっと違ってますね。

部会長

平方キロですね。

委員

平方キロですか。となるとちょっと違うような気がするんで、人口集積率はよく似た数字なんですけども、住宅がある程度まとまっているようなところでの面積あたりの人口でして、ですから黒部市さんは非常に山とかですねいろんなところ郊外に土地があるわけですけども、要はコンパクトなまちづくり、要はその人口がある程度集積してけばこのD I Dっていうのは増えてくわけなんですね。人口全体が増えなくても増えてくわけですから、そんなようなことで人口集積するというのが市さんが指導をしてですね、この地域に人口を集積したいというところに宅地開発を誘導したりということで人口を集積する。そうするとD I Dというのは増えてくというふうに思っておりますので参考にとしまして、以上です。

部会長

ありがとうございます。貴重な意見、下水道の整備もただ単に整備してけばいいっていうんじゃないという発言、下水道の担当いかがですか、その辺。ちょっと時間も過ぎましたけども、どなたですか、はい、どうぞ。

事務局

今現在市で取り組んでおりますのは、現在先程から議論なっております新駅へ向かっての幹線を整備しております。当然それぞれ先程部会長さんからもありましたように、田んぼの真ん中に一軒家あるやつを将来的に迎えにいくのかっていう話あります。ただそういった関係をひらう時には、できるだけルートをその周辺をいかに効率的にひらえるか。経済面も含めて最短でやるような、今後そういった話は出てくるかと思いますが、現時点におきましては、幹線の道路、幹路の整備につきまして集中してですね、将来的にはこういった下水道整備っていうのは多額の事業費がかかるわけですから、年数も相当かかります。先程部会長さんからも言われましたように、そういう個々のやつも今後どういうふうな形で効率的に経済面も含めましてひらっていくかというのが今後の課題だろうというふうに思っております。

部会長

私はただ一般市民として一市民としてですね、関係のない時に予算はつかないということで関係のないところに下水道がどンドンどンドン掘られてるような、家も建っていない

田んぼの真ん中が下水道通ってるとかですね、そういうのをたまたま見かけるんで、まあ今の事例の中でまた一つ議論をして次の時にということで、すいません、じゃ次はですが時間過ぎましたので、黒部峡谷鉄道の。

事務局

いやすいません、今部会長さんのご意見に対しての反論になるかと思いますが、現在私とこ進めとりますのは、あくまで幹線はもちろんやっておりますが、少なくとも事業効果の少ないところにつきましては、極力待っていただいているというのが現実であります。

部会長

分かりました、それは次の機会に。たくさんありますから、どうもすみません。

委員

峡谷鉄道の です。先程からお話聞いておまして、多分専門委員という立場でいうと何かこちらの方に先程も言われたんですけど、何か質問があった場合にお答えする形での担当かなあというふうに思っておりましたので、それとあとちなみにうちの方はちょっと乗降人員を発表させていただきますと、昨日現在で 97 万 2,768 名で対前年比ほぼ対前年比並という形で、それから今年うちとこ、ちょっとうちとこの事情いいますと、昨年中部での名古屋での万博がらみでそこら辺でお客が減ったかなあという気でおったんですが、現状いうとちょっとかなり厳しい、案外厳しい状況下かなと思っております。あと今後のという形でのお話でしたけど、またうちのところで例えば意見を出ささせていただくなり、そういう形なら改めて次の席でまたお話をさせていただきたいと思えます。

部会長

富山地方鉄道と皆さんにも私日曜日ですね、たまたま三日市から宇奈月へ電車乗る機会ありましてですね、何十年ぶりに乗ったんですね。見た田園風景っていうかですね、古い駅も素晴らしい。何もしてないのも素晴らしい。これは観光資源なるなあ。もっとゆっくり走って欲しいなあというふうに思いました。それでは新幹線の駅ができることまでですね、トロッコをつなぐ黒部峡谷と地方鉄道が手を結び合ってやる仕掛けっていうこともこれはぜひともやるべきことなんだなあというふうにして自分一人で考えてきとったわけでありましてけれども、次回の方でぜひそういうことがありますれば発言よろしく願います。

そういうことで時間が 10 分オーバーいたしまして、今日の目的まで達したのかどうかあとで事務局に怒られるんだらうと思いますが、そういうことで次回ですね、今日の理念を基にして、じゃ実際の施策っていうのは本当にこのままでいいのか、あるいは財政の方も次回はおおまかな数字が出てきます。財政の方で。

事務局

その予定で努力することにしております。

部会長

大きい数字でいいので、細かいやつはいらんですからね。そういうわけでそういうもの含めて議論させていただくということで、できれば2回目で一応の結論まで達すればいいのかなというふうに思っております。つたない座長で。

事務局

部会長さんすいません。

部会長

あーそっかそっか、僕が閉めるんじゃない。

事務局

その他少し。

部会長

その他まだあるんですか。

事務局

熱心に議論いただきましてたいへん時間押してきておりますので、手短かに申し上げたいと思います。まず一つが所属部会以外に対する意見等ということで、次第書きに書いてございます。今日第3部会としていっぱい議論いただいております、当然それぞれの部会には部会の役割りがございまして、部会としての意見集約をいただきたいということを思っておるわけですが、一方で所属部会以外のことについて何も言えないのかということにも実はしたくないなという思いが事務局にございます。事業メニューとか施策中分類の縦の表を第1から第6まで全てのものを各委員に配布をさせていただいております。その中には最重点課題としてあります市の庁舎、それから北陸新幹線、新幹線は当第3部会の該当でございますけども、それからその他重点課題として11項目ってということも入っておりますし、それらについての意見もぜひ意見があればお聞きしたかったということも予定しとったわけございまして、時間がありませんのでお手元の方に意見提言書があったかというふうに思います。12月15日までというふうに期限を切らせていただいておりますが、ぜひ今日言い足りなかったことも含めまして、他の部会のことでも結構ですので事務局へご意見いただければ、該当の部会へこういう意見もあったということをご伝えをしたいと思いますというふうに思っております。

それから2つ目、今後の日程でございますけども、部会長さんからありましたように、次回の部会までに今事務局として予定しておりますのは、例えばタウンミーティングでどういった意見・提言があったかということ、それから各部会でどういう議論があったかということ、さらに今ほど言いました他の部会から意見・提言があったかというようなことも含めて第2回部会を開く前には資料提供をさせていただきたいと思っておりますし、再三出ております財政見直しについてもあらかじめ配布できるように努力をしたいと思いますというふうに思っております。

それからもう一つすいません。基本構想1回目の審議会で提供させていただきました基本構想についても、修正すべき点は修正を加えながら空欄になっていたところについても、それらを埋めながら2回目の部会までには再度ご提示をさせていただきたいというふうに思っております。そういうことをさせていただきながら、次回の部会を1月の24・25・26日の3日間で開催させていただきたいと思っております。どの部会がどの日ということについては、できるだけ早く部会長さんと調整をしてご連絡をさせていただきたいというふうに思っております。すいません以上でございます。

部会長

はい、どうもありがとうございました。長時間に亘りまして本当に申し訳ありませんでした。次回よろしくお願いいいたします。ありがとうございました。